

こころざし



発行・編集
 深谷市教育委員会学校教育課
 〒366-0823 埼玉県深谷市仲町11-1
 TEL:048-572-9578 FAX:048-580-3260
 E-mail gakko@city.fukaya.saitama.jp



第3期 深谷市教育振興基本計画 基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成のために

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果(国語、算数・数学、英語)

令和5年度

学年	小6		中3		
	国語	算数	国語	数学	英語
深谷市	67	61	69	51	43
埼玉県	68	62	71	52	46
全国	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6

※「英語」は「話すこと」は除く ※平均正答率(%)

令和元年度

学年	中3
教科	英語
深谷市	56
埼玉県	56
全国	56

← 令和元年度の英語と比較すると・

中学校英語が初めて実施された令和元年度と比較すると、**国・県同様、深谷市でも英語の成績が低下しています。**

令和元年の結果はこちらから ⇒



深谷市の子供たちの英語の課題

英語では「話す」技能に課題が見られました。深谷市としては「話す」技能の以下の2つに焦点をあて、学習活動の充実を図ります。

中3	全国	深谷市
話すこと	12.4	10

小・中学校「即興で伝え合う」活動を充実

- ・ 小学校では、自分のことや身の回りの物に関する事柄について、即興で質問し合う。
- ・ 中学校では、話すための原稿を事前に用意することなく、間を置かずに相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合う。

中学校「考えとその理由を述べ合う」活動を充実

- ・ ALTを効果的に活用し、生徒が自分の考えや気持ちを述べる機会を設定する。
- ・ 生徒が対話での活動に取り組むとき、生徒の発言に際しては、その理由を添えて考えをしっかりと述べさせていく活動を重視する。

ALT(外国語を母語とする指導助手)が授業に参加し、児童生徒がネイティブの生きた英語を聞いたり、ALTと話したりする機会を積極的に設けていきます。

自らが話す英語を録画し、振り返る活動等に、iPadをより一層、活かしていきます。

ALTを活用するとともに、iPadを積極的に活用します

質問紙調査から見える

「子供たちの豊かな学び」を支えるものとは

～ 学力と児童生徒の学校・家庭生活との関係 ～

～「読書」や「新聞」を日常的に読むよさとは～

- ・ 新しい言葉・新たな知識・新たな情報との出会い
- ・ 言葉と言葉、事象と事象などを結びつけて考える
- ・ 感想を伝え合う機会をつくる
- ・ 読んでいない人へ、紹介する機会をつくる

読書量等が**多い家庭で育った子供は、各教科の正答率が高い**傾向がみられます。

＜あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか＞

※各選択肢を選んだ児童生徒の平均正答率(%)

家庭の蔵書数	小6		中3		
	国語	算数	国語	数学	英語
0～10冊	56.0	48.8	61.7	42.8	37.2
11～25冊	60.8	53.9	64.8	45.7	38.5
26～100冊	68.7	62.5	71.0	51.5	43.2
101～200冊	71.7	66.3	73.3	56.0	45.9
201～500冊	73.3	68.2	76.2	59.7	49.6
501冊以上	78.3	73.2	77.2	64.7	52.4

本や新聞を読んで、視野を広げ、知識を増やしていきましょう。



令和4・5年度深谷市教育委員会研究委嘱発表会

花園小学校、岡部中学校、深谷小学校、川本南小学校の4校が研究を進め、授業公開・研究発表を行いました。

開催日：令和5年11月1日（水）各校にて

○ 花園小学校研究主題 「確かな学力を育成する学習指導のあり方」

【研究内容】

- ・ 学習活動における一人一台タブレット端末の効果的な活用。
- ・ 教員のICT機器を活用した指導力の向上。

【当日の公開授業】

- ・ 「タブレットアプリ等を持ちいて、①考えを瞬時に共有②グループ内で資料を一緒に作成③端末の画面を見せながら意見交流 等の活動を行うことで、児童の考えが深まるとともに、新たな気づきが生まれました。

【講演会： 演題 『学校教育における効果的なICT機材の活用』】

- ・ 埼玉大学の山本利一教授からは、児童・生徒の学び合いを支援するためのタブレット端末の活用方法について、具体的な活用事例や資料をもとに講演いただきました。

iPadが学習ツールとして当たり前になっています！



○ 岡部中学校研究主題 「誰ひとり取り残さない生徒指導・教育相談の推進」

【研究内容】

- ・ 生徒の実態に寄り添った、学校独自の生徒指導・教育相談体制の充実。
- ・ 生徒の学校生活への適応感を高めるための、個に寄り添った指導・支援に関する意識と技能の向上。

【当日の公開授業】

- ・ 教師の意図的な働きかけにより、生徒が「出番」や「自己肯定感」、「自己有用感」を感じることでできるような授業の展開を共有することができました。

【講演会： 演題 『これからの生徒指導・教育相談 ～誰もが行きたくなる学校づくり～』】

- ・ 広島大学の栗原慎二教授からは、生徒の健やかな成長のためには、生徒一人一人を大切にされた指導・支援、生徒同士、教職員と生徒のつながり、学校と家庭との連携が必要であることを資料、経験をもとに講演いただきました。

一人一人の居場所と確かな学びの場をつくっています！



深谷小学校、川本南小学校は令和5年11月10日（金）、「ふるさと ふかや・渋沢学」フォーラムで発表（詳細は中面参照）

地域クラブ活動の「実証事業」が始まりました！（中学校）

【目的】 『学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン』より R4.12 スポーツ庁・文化庁
少子化の中でも将来にわたり、スポーツ・文化芸術の活動に継続して親しむことができる機会を確保

【考え方】

- 学校と地域とが協働し、一体となって受け皿となり、生徒の望ましい成長を保障する。
- まずは、休日の活動について、学校と連携し取り組む。（運動部からスタート）

「地域クラブ活動」の取組が11月11日より順次スタートしました。参加している生徒は、新たな指導者や練習環境に多少緊張した様子でしたが、すぐに慣れ、真剣に活動に取り組んでいました。どの活動でも、より専門的な知識・技術を学んでいる様子です。

この事業を行うことで、地域クラブ活動の成果や課題を明らかにし、深谷市における今後の地域連携の在り方を検討していきます。

【実証部】

岡部中学校 男女卓球部

川本中学校 剣道部

南中学校 ラグビー部

活動の様子



生徒の感想から

協力団体 (一社)深谷スポーツ文化倶楽部 シュエット

深西剣友会

(一社)深谷スポーツクラブ

- ・ 自分たちの姿を撮影することで、平日の活動以上に普段意識していないところを意識できるようになった。
- ・ アドバイスをもらえた。新しいプレーができるようになった。今後、自分のプレーに活かしたいと思った。